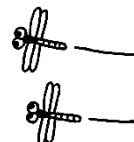


九州合研 50 周年記念企画：つながいを大切に…リレートーク No.1



コロナ禍の保育 ～今、保育園で～

発信：九州合研常任委員会 2020.9.4

2020 年 9 月に予定していた第 50 回九州保育団体合同研究集会（九州合研）福岡集会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため延期となりました。1970 年にスタートして今年は 50 周年です。記念企画の一つとしてリレートークでつながっていきたいと思います。「コロナ禍の保育」と題して、保育の中で感じること、思うこと、見直したり、振り返ったこと、新たな保育実践など発信します。

「密を避けるとは、ひとり一人の空間を保障すること、 ひとり一人がよく見えるということ」

【2 歳児、27 名のクラスを…】

2 歳児クラスは 27 名の子どもたち、5 名の担任。担任の数に合わせて 5 グループを作って生活や活動をする計画を立てていた。保育室がやや狭いので（基準は勿論クリアしているが）、部屋から出た「おひさまキッチン」と呼んでいるフリースペースを食事に使っていた。なんだかにぎやかで、動線もあれこれで落ち着かない感じ。

緊急事態宣言で半数くらいの登園になった。おひさまキッチンは使わず、部屋で過ごすことにした。保護者の立ち入りをやめて、保育室は子どもと保育者の空間になった。手洗いや荷物の準備やトイレへの促しも丁寧にした。遊びもじっくりできるように設定をした。なんだか落ち着いていい感じ。

緊急事態宣言が解除されて子どもたちが戻ってくる前に全国保育園保健師看護師連絡会が出した「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック」5/26 を参考に感染防止策を考えた。食事や活動は 1 つのテーブルで子どもは 4 人までと決めた。27 名だと 7 台のテーブルが必要。とてもじゃないけど今の保育室では難しい。そこで 16 人と 11 人に分け、一時保育室を部屋として使うことにした。主任や他のクラスの担任も加わり部屋の改造をした。

実はコロナ禍ではないこれまでも 2 つに分けた方がいいと話していた。知っていたけどできなかったことから一歩踏み出した。（変だけどコロナのおかげ?!）いつまでも泣きを引きずる子や 1 時間くらい食事にかかる子や動きが多くて気が散りやすい子も気になっていた。担任 5 人も経験や相性を考えて 2 つに分けた。

⇒2 つにキッチリ分けたことで、個人の姿がよく見えるようになったと担任は言う。今までは全体を見てしまうことが多かったことに気づいた。子どもに寄り添った言葉よりも子どもを動かす言葉が聞こえてくることもあった。食事の場所や物の置き方の見直しで子どもと大人の動線が整理された。子どものおしゃべりが耳に入ってくるようになった。よく歌い、よくしゃべる。空間の広さの保障と適正な子どもと保育者の人数を考えなくては…と改めて思う。

一つのクラスが 27 名はやっぱり多すぎるのだ。



【5 歳児クラス、少人数の生活や活動を丁寧に…】



5 歳児クラス、21 名。感情のコントロールが苦手、動きが多い、話し言葉を理解するのに時間がかかるなど配慮が必要な子どもたちがいる。担任は正規職員 2 名。進級の環境の変化を心配していたが、落ち着いて過ごしていた。クラスの人数が半数で騒がしくない環境で、じっくり縄編みやリズムにも取り組んだ。やや不器用なところがあるが、縄をうまく編むことができ、自信になった。係活動もなんとなく参加しながら、頼られたり、ありがとうと言われたり、褒められて、やり方も分かるようになり、自分から取り組むようになった。周りの職員からも落ち着いてるね、パニックになることがないねと声がかかる。そして、クラスみんなが登園してきた時にどうなるかなあ、今の雰囲気がいい感じだけど…と心配の声も出ていた。



⇒半分の人数で落ち着いているのだから、それをキープできる方法、環境を考える。

部屋を移動式遊具棚で 2 つに仕切って、3 台のテーブルに 3～4 人で座る。箸置きも導入する。

（食事の時のマナーや姿勢、おしゃべりが気になっていた）

少人数、グループでの活動を丁寧にやる。（1 グループ 5～6 人の 4 グループ）

合宿の取り組みもグループ中心に仲間を感じ、生活の自立をめざし、ワクワク楽しい体験をすることをねらいにした。1 グループだけで探検に出かけた。4 グループが探検を終えたとお互いに話をした。活動の単位をグループにすることで子どもたち同士の関わりや関係が深まった。合宿は朝から夜まで 1 日をたっぷり楽しんだ。（探検、水鉄砲や水風船で水遊び、フィンガーペインティング、ステンシルで葉書き作り、スイカ割り、お楽しみ会、肝だめし、花火）

お楽しみ会はグループの出し物をした。劇あり、クイズあり、歌あり、変な顔ありで面白かった。グループで話し合い、他のグループには内緒で練習して発表した。ソーシャルディスタンスで少し間をあけて立つことにも慣れて、ひとり一人が凛としてカッコよかった。

肝だめしは 1 人ずつ、真っ暗な部屋を進み、「勇気の印」を取りにいく。怖くて動けなくなった時、グループの仲間の力を借りた。（「○○ちゃんとだったら、行ける！」）

☆「合宿」は、例年は一泊二日のお泊り保育。バスで園から 40 分程の自然豊かな環境の場所で実施している。竹登り、川遊び、カニ取り、行ったことのない道を探検、夕食作り、肝だめし、朝の散歩、そうめん流しなどの活動をしている。子どもたちは、年長になったら「合宿に行く」ことをちょっぴりドキドキしながら楽しみにしている。

緊急事態宣言中の保育で少人数での丁寧な保育の良さを感じた保育者たち。続けるには、どうしたらいいかな？密を避けるってどんなことかな？を話し合い、アイデアを出し合い実践している。

福岡県 認可保育園 中村千恵子（園長）

☆リレートーク、次は宮崎県の松木さんです！ 